

下線部 追記箇所

現状と課題

- **障がい者がスポーツを楽しむ環境が整っていない**
 - ・身体障がい者の高齢化、若年者のスポーツ離れ、学校卒業後にスポーツから断絶
 - 県障がい者スポーツ大会の参加者 1,541 人（H22）⇒1,193 人（R1）
 - 障がい者が参加している総合型地域スポーツクラブ 全 66 クラブ中 14 クラブ
 - スポーツ実施率 一般 53.6%、障がい者 25.3%（スポーツ庁調査）
- **全国障害者スポーツ大会に向けた競技力の向上が課題**
 - 団体競技（全 7 競技 12 チーム）は、過去 4 年間本大会に出場できていない
 - うち 5 チームは予選会への出場すらできていない状況
- **障がい者スポーツを支える支援団体や指導者の体制が脆弱**
 - ・福祉事業所でのスポーツへの理解不足、支援者の体制の脆弱さ
- **新型コロナによる影響**
 - ・スポーツをする機会の減少（R2～4）、感染症 5 類移行後も、すぐ以前には戻らない



【目指すべき社会】

- ①身近な場所で、障がいの有無にかかわらず、スポーツを親しむことができる社会
- ②障がい者スポーツに理解のある指導者が増え、適切な練習や競技ができる社会
- ③多くの県内アスリートが全国障害者スポーツ大会に出場して活躍し、県民が大会運営を支え、応援する社会

【2028 年全国障害者スポーツ大会の選手育成の目標数】

選手〔個人競技〕 235 人〔団体競技〕 305 人【合計】 540 人

【大会に向けての目標・指数】

- ・個々の置かれている状況で、長野県選手として精一杯努力し、誇りをもって競技に挑む
- ・〔個人〕 選手の半数が自己記録を更新 〔団体〕 2027 全障スポで予選突破 6/12 チーム

重点施策の 6 つの柱

環境整備

身近な地域でスポーツを楽しむ拠点づくり

- ・特別支援学校のクラブ活動活性化、学校体育館の開放
- ・総合型地域スポーツクラブへの支援強化
- ・地域の競技用具の整備
- ・県とサンアップル・市町村等の連携強化

人材育成

指導者や競技を支えるボランティアの増加

- ・地域で障がい者と指導者とのコーディネートを担当する人材育成
- ・特別支援学校で指導を行う専門家の養成、派遣
- ・指導者の養成拡大及び組織的活動の活性化

機会の提供

障がいの有無を超えてスポーツを通じた交流

- ・パラスポーツの大会を通じた交流の場の提供
- ・公民館活動における地域密着型の交流の展開
- ・学校で障がい者スポーツに触れる機会を拡大

選手の発掘・育成

競技人口の拡大

- ・特別支援学校の児童生徒等への競技普及活動
- ・団体競技の強化（強化合宿、大会への派遣等）
- ・各競技の全国大会の県内誘致
- ・みらいアスリートディレクターの活用

競技力向上

全国大会や国際大会で活躍するトップ選手の育成

- ・障がい者競技団体と一般競技団体の連携強化
- ・〔R6.4～県スポーツ行政の一元化〕
- ・指定強化制度の創設と強化策の策定
- ・組織未設置の競技団体の設立支援

理解促進

認知度を高めて応援する県民を増やし行動を促進

- ・SNS 等を活用した情報発信の強化
- ・障がい者と行政の双方向の情報伝達の確立
- ・県民を巻き込む取組
- ・国民スポーツ大会と一体となった県民への大会への理解促進

